

下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案へのパブリックコメント実施結果

1. 意見募集期間

平成27年9月3日（木）～10月2日（金）

2. 意見応募状況

意見応募者数：6名

意見件数：6件

3. 意見の要旨とこれに対する市の考え方

番号	意見の要旨	意見に対する市の考え方
1	<p>1. 本来は、学校の統廃合に先立って作られるべき計画である。後から作成され統廃合については追認というのは理解できない。</p> <p>2. 戦略で触れられているのは、源平合戦や幕末といった旧下関市中心部の観光資源のみ。周辺部の歴史や人々の努力を無視している。</p> <p>3. シビック・プライド、シティプロモーション等分りにくいカタカナ語や意味のないグラフを使わず、内容のあることを簡潔に書くべき。</p> <p>4. 旧下関市に偏った無駄な施設の建設（教育研修施設、ユースホテル、体育館等）をやめてどの地域でも平均的なサービスが受けられるようにしてもらいたい。</p>	<p>1. 下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、学校統廃合について追認を求めるものではありません。</p> <p>2. 交流人口を増加させるために活用する認知度の高い歴史資源を例示しているものであり、個別の地域資源を無視しているわけではありません。</p> <p>3. カタカナ語には、注釈や文章中に説明書きを加えることで意味が分かるようにしています。またグラフは、戦略立案に不可欠な現在の状況を把握するために掲載しています。</p> <p>4. 人口が減少し将来世代の負担の増加が懸念される中で、公共施設をどの地域にも平均的に整備していくことは困難ですが、人口減少下でも活力を失わないまちづくりを推進していきたいと考えています。</p>

番号	意見の要旨	意見に対する市の考え方
2	<p>下関市の課題・問題点について、優先順位のつけ方が不十分であり、基本目標や施策が一般的で、本市の独自性が見えない。</p> <p>優先順位の高い基軸とすべき戦略・施策について、以下のとおり提案する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最優先の戦略・施策として、地域産業の強化、特に商工業の強化を打ち出すべき。また、下関市の諸課題・諸問題に対する諸種の戦略・施策について、積極的に革新性を備えて打ち出すべき。</li> <li>2. 新しい時代の行政サービスの在り方を包括した、本市の環境にかなった独自のコンパクトシティ構想を、戦略の基軸とするべきである。</li> </ol> <p>下関市の厳しい現状・見通しを勘案すると、市民の意見を募る、市民の意向に委ねるだけでは、成果は得られず、手遅れとなる恐れがあり、行政サイドの優先順位を付けた重点志向の打ち出しが求められると考える。</p> <p>下関市の積極果敢な行政基盤戦略の構築と、打ち出しを期待する。</p>	<p>下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、限られた期間の中で策定する必要があるため、完全な内容であるとはいえないため、今後、柔軟に改訂を行っていく予定です。</p> <p>いただいたご意見については、その際の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>素晴らしい企画案である。</p> <p>今後の国の形をどうするのか、現在の若者が将来希望持てるような発想が必要であり、大企業の組織を一部地方へ移転や、官民の給与格差の是正等が大切。</p> <p>立派な企画案なので実行を楽しみにしている。</p>	<p>下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、KPI（重要業績評価指標）の評価や下関市まち・ひと・しごと創生推進会議（外部有識者会議）でのご意見を踏まえて、PDCAサイクルにて実行してまいります。</p>

番号	意見の要旨	意見に対する市の考え方
4	<p>本原案は、本来、市町村が発案するものではなく、国を挙げての重要課題として、国が主体的に取り組むべきものだが、それを踏まえたうえでの意見は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主財源、特に地方交付税の増額を望む。</li> <li>2. P D C AのなかのC (Check 評価) に重点を置き、公開するべき。</li> <li>3. 柔軟な意見を取り入れるため、市内五大学の学生を案作成に参加させる。</li> <li>4. まち・ひと・しごと創生法の周知徹底。</li> <li>5. 施策は若年層を主体に推進する。</li> <li>6. 北九州市 (特に門司地区) との連携に重点を置く。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機会を捉えて国に要望してまいります。</li> <li>2. P D C Aサイクルはどの過程も重要であり、それぞれ適切に対応いたします。公開については、その方向で検討してまいります。</li> <li>3. 今後、検討してまいります。</li> <li>4. 国・県とともに対応したいと考えています。</li> <li>5. 全市体制で臨まなくてはならないものであり、若年層にも参加を促したいと考えています。</li> <li>6. 北九州市との連携についても、下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略に取り入れており、今後推進してまいります。</li> </ol>
5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. K P Iについて、設定値の確からしき、具体的な施策を明記して頂きたい。大きく分けて3区分。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 既に施策が有り、各施策の期待効果を積み上げて設定した値。</li> <li>② 施策は決まっていないが理由があり、達成が必要な値。</li> <li>③ 施策も決まっておらず、根拠がない目標的な位置づけの値。</li> </ol> <p>K P Iを掲げる以上、施策の明示は必須。少なくとも②については、達成見込みを立てて進める必要があり、方法を明確化し開示していただきたい。</p> </li> <li>2. プロポーザル、産学公連携の積極的な募集および見える化をお願いしたい。具体的な課題が挙げられないものについては、協議会を設置し、幅広い分野から意欲的な人材を募るべき。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. K P Iは、施策 (事業) の達成度合いを図るものさしとして設定しており、その性格を明確に区分できるようなものではないと考えます。</li> <li>2. 下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、産業・学術機関・金融機関・マスメディアといった幅広い分野の方々からなる「下関市まち・ひと・しごと創生推進会議」を設置し、策定や推進にあたって、御意見をいただくこととしております。</li> </ol> <p>また、下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、公募で選ばれた市民委員に参加していただいて策定した「第2次下関市総合計画」を基に策定しております。</p>

番号	意見の要旨	意見に対する市の考え方
6	<p>「施策の展開」については、下関市のポテンシャル活かしたものであり、施策マーケティングを行った上で想定できる具体的なプレイヤーにつながる事業でなければ十分な効果が見込めない。また、具体的な内容が拡散しているため、どこに力点を置いて取り組むのかを明確にする必要がある。目標値の根拠が不明であり、多様な人材で構成される「総合戦略策定推進組織」が全く活かされていない。課題については以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新たな仕事を創り出すことや人材不足を補う施策がない。特にサービス産業については、緊急の対応が必要。</li> <li>2. 行政の財源が乏しいなかで、民間投資を引き出す仕組みが見受けられない。歳出を削減する工夫もない。官民協働に加え、地域間連携、政策間連携も必要である。</li> <li>3. 高齢者社会に備えた施策がない。健康寿命を延伸させるプロジェクトや高齢者の雇用促進を増やす施策がない。</li> </ol>	<p>下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、限られた期間の中で策定する必要がある、完全な内容であるとはいえないため、いただいたご意見も参考とさせていただき、今後、柔軟に改訂を行っていく予定です。</p>